

Q1 「外務省の組織・業務説明について、特に印象に残った点があれば教えてください」への回答

- ・外交といっても様々なことをするのだというわかった。安全保障や人権などのことも知っておかなくてはならないので、大変な仕事ではあると思うが、やりがいのある仕事だと思った。
- ・外務省の職員の一日の流れや仕事の内容などを詳しく色々と説明してくださったことです。
- ・想像以上に仕事が多くて命懸けなことに驚いた。入省するのに、外国語の技能がそんなには求められないことが意外だった。
- ・役割がしょっちゅう変わるということが意外だったので、印象に残っています。
- ・危険な地域での生活の様子は印象に残りました。
- ・外務省は外交が主であり、外交以外に何かしているとは考えていなかったが、外交以外にも海外の支援などを行っていることが印象に残った。また、2~3年で役職が変わるということに驚いた。
- ・外交の仕事に偏っているわけではなく、様々な仕事を広い範囲でされていることに驚きました。
- ・過酷な勤務なのに頑張ってもらえることがすごいと思いました。
- ・担当する業務が定期的に変わるということに驚いた。大人になって、さらに能力が上がると思った。
- ・退職まで同じ業務を担当しないということ。専門的な職業なので、てっきり同じ業務をずっと行うのだと思っていました。
- ・1年目から本格的な業務に携わることができる点。各省庁との関係と同様に、大使館の中にも多方面から様々な人が来て仕事をしている点。
- ・1年目からハードな仕事を任されること。
- ・いきなり外国で仕事をさせられること。
- ・マルチな場での会議などで、双方の意見が食い違ったりしても、打開策を練るなど柔軟な見方が必要であると思った。
- ・マルチ外交の場では、会議場の外で相手国の外交官をつかまえて話をするところがあることや、仕事が変わる度に新しく勉強する必要があるんだなということなど「外交官のリアル」みたいなことが聴けて面白かったです。
- ・日本だけでなく世界全体のことを考えているということ。
- ・エチオピア大使館での業務のお話が特に印象に残っています。
- ・外交を通じて日本を発展させていたという実態を知ることができました。とても感動しました。
- ・外務省が世界の人権問題について取り組んでいるということ。自分が今まで知らなかった業務についてのこと。
- ・人道課の仕事の範囲はとても広いと思った。
- ・中川さんのお話を聴いて、様々な意見、時には、真っ向から対立する意見をまとめて結論を出すということがいかに大変かということが分かりました。西原さんのお話を聴いて、外務省の若い職員の勤務形態や苦労話から外務省の組織の雰囲気を知ることができました。
- ・外務省の新人は留学しなければならないこと。そうはいつでも外国語が達者でないといけないこと。
- ・外務省は2年ごとに役職が変わる仕組みであるということ。お父さんが法務局に勤めていて、同じく2年ごとに異動があり大変そうだったので、外務省で働いている人たちも異動があるたびに学び直さないといけないこともあるだろうし、新たな人間関係を築いていく必要があると思ったので、予想以上に大

変な仕事だと思った。外交官という仕事は海外に出張していろいろな国の人と関わっていただけに、苦労は多いがとても充実していると思った。

- ・記者会見場。黒塗りの車の往来。
- ・業務に取り組む姿勢について大事なところを繰り返し説明してもらえたので分かりやすかったです。
- ・2年ごとに担当が大きく変わる。意外に動的な勤務形態だということ。
- ・短期間にいろいろな役職が変わること。時には外務省以外の省庁に行くこと。海外留学に行くこと。
- ・外務省の見学をする前は、日本にとってあまり重要でない国の在外公館は必要ないと思っていたが、今回の見学を受けて、そのような在外公館の必要性が分かった。
- ・外務省の仕事は大変である。
- ・外務省の職員の方々は2,3年ごとに役職が変わり、そのたびに新しい仕事の内容や勉強しなければならないことがあり、大変な仕事だと感じました。また、国の重要な仕事を担っていることもあり、仕事のやりがいも相当大きいものであることが分かりました。
- ・入省1年目でも即、実戦の場に投入されることに驚いた。相手側に積極的に話していくということも知った。赴任先が危険な地域のこともあるということで、邦人関係の情報をいち早く入手して関係のある全員で共有することということに驚いた。
- ・地域別の他にも、仕事の種類別に分かれていること。
- ・2~3年で業務がどんどん変わる。何歳になっても常に勉強をし続けないといけない。専門言語の国に留学すること。
- ・外務省のイメージは、大使館における仕事だけというイメージだったのですが、実際に聞いてみると、人権問題に関する仕事や日本の文化を世界に発信する仕事があると聞き驚いたので、とても印象に残っています。
- ・ODAやPKOなしでは平和は構築されないという点。
- ・外務省の仕事は意外にきつい仕事だったという点。
- ・基本的に外務省についてのイメージとしては英語ペラペラのエリート外交官が闊歩する場所だと思っていたのですが、人権人道課とかそういう「国と会話して国民を守る」部署等を見ると、実際そんなことはないなと知ったのが驚いた。
- ・入省時に語学力が必要ないとおっしゃっていた点。

Q2「外務省職員との懇談・質疑応答について、特に印象に残った点があれば教えてください」への回答

- ・とてもハードな仕事なのではないかと思った。しかし、どちらの先輩もご自分の仕事をやりがいのある仕事と言っておられたので、外務省は良い職場なのだなと思った。また、省庁の中でも女性を多く登用するなどして、よりよい外交をおこなおうとしているのが分かった。
- ・質疑応答にも丁寧に答えてくださいました。特に、中原君（後の方）の質問への回答がすごく分かりやすかったです。
- ・なんとなくでは済まされない仕事だということはわかっていたが、やっぱりそうなんだと思った。交渉を無事に成功させるというのは何度やっても達成感のあるものなのだとことが伝わってきた。

- ・粘り強くやるというのが一番大切だというのが印象に残りました。
- ・イランやアフガニスタン、エチオピアなど治安があまりよくない地域でも安全に暮らせるようになっている点。
- ・自分の考えややり方に対し、もっとより良いやり方はないのかと深く考えるという点。
- ・人と接する職業であり、他人との軋轢が生まれて大変だと思うので、すごい精神力だと思った。
- ・思っていた以上に危険・過酷な業務だということ。内戦・紛争などに関係なく、派遣されて職務をこなすということは素晴らしく、また大変な力がいると感じました。
- ・大使にも民間の方を登用することもあること。お金に換えることができない仕事であるということ。
- ・睡眠時間が短くて大変だということ。
- ・睡眠時間がとても短くて大変だと思った。
- ・中川さんと西原さんのやりとりを聴いていて、上司と部下の仲がとても良いと思いました。
- ・文化の異なる異国という環境でも、初対面の外国人とコミュニケーションを、拙いながらもとって、情報を得るなどして適応していく力が必要だということで、今後の自分にも必要なことなのではと思い、特に参考になりました。
- ・お二人の先輩が経歴順に1つ1つどのようなことを仕事にしていたかを聴けて大変に面白かった。
- ・交渉において、絶対に守りたいことと、後で妥協してもいいものをきちんと分ける。みんな留学を経ている。危険な場所に行くことが多い。毎日が選択の連続である。
- ・新人の頃、朝9時から翌朝5時まで仕事をしなければならなかった話が印象に残っています。
- ・人によっては1年目から大役を任されたり、語学留学をさせたりすることです。(普通の企業とかの業務形態と一緒にだと思っていたので)
- ・発展途上国での体験で、日本では絶対にありえないことが起こったときのお話。
- ・外務省の職員の仕事は、危険だったり忙しかったりするけど、とても重要な仕事なのだと思った。
- ・何が何でも守らなくてはならないものと最後は妥協してもよいものを見極めることが重要であること、そのための情報収集の重要さが分かりました。
- ・新入りに対してはけっこうブラックだなと思った。民間に任せるより外務省のプロに任せる方がよいことや、女性職員の割合が高いという点に驚いた。
- ・職員の人から、入省当時の語学力はそんなに必要ないと聞いたが、入省1年目でいきなり海外に派遣されたり留学にも行ったりして、外務省で働きながら自分の語学スキルを高めていくスタイルがとても良いと思った。また、海外で働く仕事に就くには語学力もそうだが、コミュニケーション能力がとても大切だと思った。
- ・説明が分かりやすかった。
- ・自分の質問に対して丁寧に答えていただけだったので嬉しかったです。
- ・役所といえば、堅い感じを想像していましたが、廊下ですれ違う方々が皆さん笑顔で、良い職場なんだろうなと思いました。
- ・意外と女性職員が多く、任される仕事に男女の差がないと言われていたこと。
- ・官庁勤めという堅いイメージがあったが、時には冗談も言っていて、イメージと違っていた。
- ・仕事の内容が自分たちには想像できない難しいものであった点。
- ・一番印象に残ったのは、最後の質問に対しての中川さんが「物や数値として結果が表れないものだから

らこそ自分でよく考えていくことが重要である」と返答されたことです。

- ・お金の換算できない仕事というのがすごく印象に残った。大きな仕事をやり切った後で得られる達成感はすごいと思う。
- ・経歴について詳しく仕事内容を教えてくださったところ。実際に経験された仕事について説明してくださったのでリアルだった。
- ・課長さんでも意外と普通の勤務時間なのかと驚いた。逆に、勤務初日で早朝 5 時までの勤務は大変だと思った。何もわからないままで外国における議論の場に放り出されて大変だが勉強になると思う。
- ・政府では男女差がまだあるのではと思っていたので、男女で待遇にほぼ差がないと聞き驚きました。
- ・就職後 2 年間アメリカに留学し、いきなり英語の通訳をお願いされること。
- ・大変スムーズな進行であった点。
- ・あまり女性が差別されていないことに驚きました。当然「男女雇用機会均等法」があるとはいえ、全職員の約 3 割が女性というのは相当だと思う。
- ・質問に即座に答えられていたこと。頭の回転が速いなあとと思った。会議の場では、その場で考えて答えるという力が必要になるんだろうなあとと思う。24 時間、警備員が付いていること。
- ・外交で大切なことは「粘り強くやること」とおっしゃっていたこと。

Q 3 「今回の訪問は、期待どおりの内容でしたか」への回答

期待以上：27件　期待通り：12件　無記入：4件